花崎北小学校だより

学校教育目標「かしこく　やさしく　たくましく」

令和５年度
３月号
児童数２５３名

「伝承」

校長　藤井　真仁

毎年この時期になると、平成２３年３月１１日のことを思い出します。

あの日の夜、家族全員の無事が確認できた時はほっとしましたが、その後も、原発事故、計画停電など想像できなかったことが次々と起こり、不安な日々が続きました。

あれから１３年。現在の小学生は、全員、東日本大震災後に生まれました。

先日、「東日本大震災などの災害の記憶を、どのように伝承していくか・・・」というニュースを目にしました。東日本大震災や近年の豪雨被害以前から、津波や洪水の際にどの高さまで避難すればよいか分かるように、目印を付けたり木を植えたりすることが行われていますが、いつの時代も、災害の記憶や教訓を伝承することは課題の１つのようです。

さて、本校の周辺には、過去に発生した自然災害の様相や被害状況等が記載されている石碑（自然災害伝承碑）がいくつか残されています。

その１つを紹介します。帰宅時に、浅間山が見えると思い出す石碑です。

碑名は「石橋供養塔・降砂洪水記録之碑」、建立年は寛政３年（１７９１年）です。加須東中の南を流れる青毛堀川に架かる二枚橋のそばにあります。石碑の右側面には「天明３年（１７８３年）の浅間山噴火による降灰により、利根川などの川床が上昇した。天明６年７月１３日から１６日（１７８６年８月６日から９日）まで大雨となり、諸河川の氾濫をもたらした。翌年は、前年の水害と天候不順により凶作となり飢饉となった。」と記されています。

当時の加須の人々が、歴史の教科書に載っている浅間山の噴火の影響を受けたことや、飢饉に見舞われた事をうかがい知ることができます。

この他にも、「明治四十三年大洪水記念碑」（花崎の鷲宮神社）や「昭和二十二年大洪水記念碑」（南篠崎の神明社）などの自然災害伝承碑がありますので、探してみてください。

「地理院地図（自然災害伝承碑）」をもとに作成